

2022 年度
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	毛利彰宏
研究機関名	藤田医科大学
所属部署名	大学院保健学研究科レギュラトリーサイエンス分野
役職名	分野教授
研究課題名	うつ病を予防するセルフマネジメントシステムの構築
研究実施期間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

研究成果の概要

健康科学リソースセンター (RECHS) と協働し、同意の得られた人間ドッグ受診者のうつ・ストレス指標 (CES-D, GHQ-28) を基準に、食習慣 (BDHQ) の変化を解析した。うつ病前段階である抑うつハイリスク群 (CES-D \geq 16) において食習慣の変化があることを発見した。本臨床知見に基づき、実験動物を用いて食習慣の変化が慢性予測不能軽度ストレスにより誘発されるうつ病態形成にどのような影響を与えるか、①行動薬理、②神経化学、③末梢-中枢連関に注目し、検討を行った。ストレス下における食習慣の変化はストレス応答性を変化させ、認知機能に影響を与えた。さらに、モノアミン神経への影響を検討したところ、モノアミンの代謝に影響を与えるとともにその受容体の発現変化を惹き起こした。ストレス下における食生活の変化は末梢機能に影響を与え、脳内の遺伝子発現変化が認められた。